

○受講講義：Japan and East Asian Regional Environmental Issues

(1) 講義内容・進め方・負担などについての感想

国際的な環境政策の変遷を踏まえつつ、日中韓の三カ国における環境政策やその歴史について学んだ。事前に関連する教材が40ページほどメールで配布され、ディスカッションの参考にできる程度に読んでおく必要があった。90分授業が週2日ある形式で、それぞれはじめての70分ほどは講義、残りの20分で生徒同士のディスカッションが行われた。講義中も自由に質問しやすい雰囲気、場合によっては生徒が答えることもあった。原発の処理水や水俣病について学んだ際には唯一の日本人学生として内からの視点を伝えようとしたが、センシティブな内容だけに意見の相違が生まれることが多かった。ただ、互いの意見について納得できない点を伝えつつ議論を深めることで、嫌な気分を一切することなく議論を進め自らの考えを深めることができた。また、他国の環境政策の実情について直接話が聞けたことで、より中立的な考え方が身についたと実感している。通常授業の他に計3回のフィールドワークが行われ、研究・市政・幼児教育の3つの場面で環境問題に対してどのような行動がとられているのかを学んだ。評価としては授業中での発言に加え、2回のExamとフィールドワークに関する小レポート、グループでのプレゼンテーションが課された。Examは授業で学習したことをもとに自分なりのアイデアを述べるレポート形式であったので、学習内容の丸暗記は必要ない一方で深い考察が必要だった。プレゼンテーションは3～4人のグループで行い、1グループあたり20分の発表と20分の質疑応答が設けられた。Exam・プレゼンテーションともに準備と練習をしっかりと行えば英語力の有無に関わらず高い評価をもらえる。個人的に長期留学を控えているので、京大とは異なる授業形式への参加経験は非常に貴重であり、留学を考えている学生にとって理想的なプログラムだと感じた。

(2) KCJS 学生との交流についての感想

KCJSの学生は全員日本文化に興味があり、学問全般に対する意欲が高い。授業やプライベートでの関わりを通して彼らから刺激を受けることができる。またアメリカ以外を出身国とする学生も多く、例えば中国語の学習について相談することもできた。授業外でも一緒に食事をしたりカラオケに行ったりなど友情を深めることができ、プログラム修了後の今でも頻りに連絡を取り合う仲を築けた。交流について唯一後悔しているのは、KCJSの授業(3限)の直後(4限)に京大での授業を入れてしまった点である。授業後の食事や観光などに参加できなかった。機会があればKCJSやSJCにもう一度チャレンジしたいが、その際は授業後のコマを開けられるようにしたい。

(農学部 / 1回生)

○受講講義：Migration and minorities in contemporary Japan

今回の学期で私は、KCJSに参加させていただき、非常に有意義な経験をしました。この4か月という短い期間は、私にとって充実した時間で、大きな自己成長を実感しました。この期間中には、授業で得た

知識だけでなく、素晴らしい友人たちとの出会いもあり、授業外で一緒に遊んだり勉強したりして、親睦を深めました。ネイティブの英語を日常的に使う機会があったことは、私の目標であった英語力の向上に大いに役立ちましたが、それ以上に印象深かったのは、KCJS の留学生たちとの交流で感じた彼らの素直さと優しさでした。これは、日本の大学生とは異なる文化であり、特にある授業でその違いを実感しました。授業内で、日本における人種差別について議論している際、私の発言が配慮に欠けるとある生徒に指摘されました。初めは驚き、そして彼女が私の発言に対して憤りを感じているのではないかと心配しましたが、その主張を真剣に受け止め、自分の意見を再評価する必要があると感じました。その後、授業が終わった後に、議論した留学生が笑顔で私に対し「I enjoyed discussing with you.」と言ってきてくれました。その時、私はこれがアメリカの授業文化であることを理解しました。日本では、優しさが正直な感情表現を抑えることと結びつくことが多いですが、留学生たちのように率直に意見を交換することが多くの収穫をもたらすし、それが本当の優しさだと感じました。

また、プレゼンテーションをする際にも、私の限られた英語力で発表を行った際、留学生たちは真剣に聞いてくれ、ほぼ全員が講義後に「Good job」と励ましの言葉をかけてくれました。最初は文化の違いに戸惑いましたが、次第に留学生たちの素直さや優しさを理解し、アメリカの授業文化を楽しむことができました。日本の大学の講義で、こういった雰囲気になることは難しいと個人的には感じますが、私は KCJS の講義に参加する機会をいただけたことを生かし、京都大学の講義でも彼らの長所を見習い、積極的に自分の意見を発信することのできる生徒になろうと思いました。

さらに、KCJS での経験は私にとってキャリアの面でも大きな影響を与えました。疑似的な留学生生活を体験できたことによって、国際的な視野を広げ、異なる文化に対する理解を深める機会を得ることができました。これは将来の仕事や研究において非常に役立つと考えています。KCJS のプログラムによって、私は、文化交流と学術的な成長を同時に実現することができたということで、参加して本当によかったなと感じています。私はこの素晴らしい経験を一生忘れませんし、KCJS で得た宝物のような思い出を大切にしながら、今後の自分の活動に生かしていきたいです。

(文学部／2年生)